

1. 住宅改修とは

2. どうして理学療法士が住宅改修を勉強するのか

「
より「
「
残存能力を活かせる住まい作りが必要である。

3. 改修において注意しておきたい事

1) 動作・ニーズの個別性について

どの動作方法が対象者にとって適切か考える。

e x. 入浴方法…立位で縁をまたいでの出入りを行うのか、バスボード等を使って座位での出入りを行うのかによって手すり等の位置も変わる。

→ 現在行う事の出来る方法の検証が必要。(安全な範囲で出来る限り現地で実際に行って頂くのが良い。)

対象者にとって何が必要かを考える。人の暮らし方や過ごし方は十人十色である。

e x. 趣味や家事、家族との関係など

2) 本人・家族の希望と必要性について

一つの希望は、住宅改修の必要性の一端にしか過ぎない。

一ヶ所に問題(生活障害)があるという事は、他の場所でも問題が起こる可能性がある。

→ 希望の出ている場所や動作だけでなく他も調査が必要である。

3) 改修・工夫の方法について

絶対正しいという方法もない。

→ 色々な方法の中で、より良い方法を検討する。

一つの問題に対しての改修や工夫の方法も多くある。

→ 図面や関係職種の意見などを参考にしながら、2・3パターンについて提案出来るようにしておく事が必要。

e x. 福祉用具の活用や家具の移動などの工夫によって、改修しなくても解決出来るケースもある。

4) 関係職種との連携について

各分野のプロと相談しあう事が大切。

→ 私達は動作分析のプロでしかない。構造的な問題や社会的サービスの利用、福祉用具の選択、普段の生活の様子など…色々な問題が絡みあってくる住宅改修では、役割分担が必要。情報を共有して検討する。

4. 住宅改造の基礎知識

5. 事例について